教科	国語	学年	2	クラス	Ad/Ba	担当	佐藤/田中/矮松

教科目標	人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わうとともに、他者との関係性や心情を想像する力を養う。 作品を通して自分の内面との対話を促し、考えを深める。

科目	文学国語

	前期	後期
学習内容	【佐藤】 〇短歌の基礎 ・短歌の形式や表現方法について知る ・自分で短歌を作り、好きなこと（もの）を表現することを体験する 〇評論「言葉を生きる」 ・生きることと、言葉との関係を読み取る ・「悲しみ」は必ずしもマイナスな感情ではないことを考える 〇随想「国語から旅立って」 ・多言語体験に基づいた考えを読み取る ・多角的な視点で日本語を見つめる ・自分自身の心情を言語化することの大切さを体感する 〇評論「言葉は世界を切り分ける」 ・言葉の性質を知り、言葉を「使う」ことの本質を理解する ・言語学を通して、自国と他国の価値観や文化の違いについて学ぶ ・オリジナルの言葉を実際に作ってみる（表現） 【矮松】 〇小説「良識派」 ・寓話というジャンルの特徴を理解する ・物語中で起きる事象について、その因果関係を理解する ・「良識派」というタイトルが指している集団の特徴を理解する ・物語のもつ「寓意」について、自分自身の考えを述べる 〇小説「山椒魚」 ・現代ではあまり使われない作中の語彙について正確に理解する ・「山椒魚」の性格や考え方について、作中の言動を基に推察し、それについて自分自身の考えを持つ。 ・「山椒魚」の改変について、その是非に対する自分自身の考えを述べるとともに、「作家論」や「読者論」等の考え方に触れる。	【佐藤】 〇小説「山月記」 ・小説の読み取り方、心情の動きや場面転換について学ぶ ・登場人物の生い立ちや人間像から、生徒自身も自己と対話し、自身の課題と向き合う（生き方について） ・漢文調の文体から、作者の生い立ちと中国文学について触れる 〇小説「鞄」 ・作者とシュルレアリスム（芸術学）について学ぶ ・現代社会に対する考えを深める ・人生において大切なものは何であるのかを考える 〇詩「帰途」 ・戦後詩を切り拓き、常に詩の最前線で活躍した田村隆一の作品に触れ、「言葉」と自分自身の経験について考える ・複雑な感情や感覚を言語化することを目指す 〇詩「自己紹介」 ・谷川俊太郎の詩を味わい、素直に言葉で表現することを学ぶ ・自己紹介の詩を書いてみる。素の自分と向き合い、長所も短所も得意なことも長所も短所も得意なことも苦手なことも包み隠さず言葉で表現することに挑戦する 【田中】 〇自分の感受性くらい ・茨木のり子さんの生きてきた時代の背景を触れながら、詩の内容や表現方法を学ぶ。 ・自分らしい生き方について考える。 〇小説「こころ」 ・登場人物の心情を理解しながら読む。 ・自身と他者の心のありようについて考えを深め、付き合い方を学ぶ。
理解度の目標値(期末補習の基準)	・作品を通して、自身の考えを深め、論述できること ・自分の興味や関心のあることを表現できること ・作中に出た漢字の読み書き、語句の意味を身に着けていること ・文学作品の登場人物の心情を根拠をもって推測できること ・場面や読み手を意識して自分の考えを文章に表すこと ・作品のジャンルや作家に関する知識を身に着けていること	・文学作品の登場人物の心情を根拠をもって推測できること ・作中に出た漢字の読み書き、語句の意味を身に着けていること ・作品を通して、自分自身の課題と向き合い、思考を表現できること ・作中の中国文学的表現を理解していること ・言葉の性質について理解していること ・文化による価値観の違いを身に着けること ・書き言葉を適切に扱うことができること
学習上のポイント	・自分の考えを豊かに表現する（表現のヴァリエーションを増やす） ・各文章の読み取り方を理解する（心情・人物像） ・知らない言葉や理解の曖昧な言葉に出会ったとき、そのままにせずに意味を調べる習慣を作る ・新聞や本などのまとまった文章に触れる機会を作る	
その他の学び	・授業で扱った単元の応用　・短歌、詩の表現（自作する） ・小論文の書き方について学ぶ　・テーマに沿った小論文を作る ・漢字や語句の知識を増やす（語彙力）　・現代文読解問題の解き方の習得を目指す ・対義語や類義語、多義語について学ぶ ・推し札選手権(百人一首大会)　・読書会（一つの本を語り合う） ・俳句に関する基礎知識を学び、身近な出来事を俳句の凝縮された表現に表すことを体験する。 ・「作家の時間」（自分の書きたい文章を見つけ、それを自分なりに書きあげるまでのプロセスを学ぶ時間。火曜に行う。）	

教科を通じて 学んで欲しいこと	・自分の考えを持ち、その考えを大切にすること（素直な考えを記述する） ・作品を通して、考えや感情の表現の仕方を学ぶこと。表現することの楽しさ ・文学作品を味わううえで利用できる様々な視点を得ること ・相手の立場を大事にしながら、自分自身の考えを言葉で伝えること
学習教材	東京書籍　文学国語
その他	・漢字の学習プリント（漢検対応）を配布。毎週水曜日にテスト→満点合格、できないところは練習プリントに取り組む ・・・漢字を学習し、身に着ける楽しさを知る→漢字検定受検の促進 ・マナトレ・・・火曜日の冒頭に導入（集中力UPと作文の確認のため）

2025年度(令和7年度)【通学型】

教科	地歴・公民	学年	2年	クラス	Ad／Ba	担当	児玉/島田

教科目標	社会にある様々な事象について学び、知識を習得して視野を広める。また、その知識をいかしながら考えや意見を持つことができるようにし、自分の考えを様々な方法で表現・主張することができる。他者の意見を様々な観点で受け入れ、自己の理解を深める。過去の出来事が現代の様々な社会的事象につながっていることを理解する。

科目	歴史総合/政治経済

	前期	後期
学習内容	○歴史総合 第2章 近代化と私たち P20～P76 …世界と日本の経済、政治を中心に近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する 1. 18世紀のヨーロッパとアジア/産業革命 2. 世界市場の形成/東アジア国際関係の変化と日本の開国 3. 市民革命と近代社会 4. 自由主義とナショナリズム 5. 立憲制の広まり/帝国主義と植民地 6. 日清戦争と華夷秩序の解体 7. 帝国主義諸国の競合と国際関係/20世紀はじめの世界 ○政治経済 1. 日本経済の発展と現状 ・・・戦後復興からバブル経済の崩壊までの日本経済の変遷と産業構造の変化について理解する。 2. 社会福祉と日本経済の課題 ・農業・食料問題 …戦後日本の農業政策の発展や林業や漁業の抱える課題について理解するとともに、これからの日本の農業と食料はどうあるべきか考える。 ・消費者問題 …消費者問題が発生する理由や消費者保護のために行われている施策について理解をする。	第3章国際秩序の変化や大衆化と私たちP84～141 …多面的・多角的に二度の世界大戦を考察したうえで大戦後の国際秩序の変化を理解する 8. 第一次世界大戦の展開 9. 国際協調体制の形成 10. 世界恐慌 11. 国際協調体制の崩壊 12. 日中戦争 13. 第二次世界大戦 ○政治経済 3. 国際政治のしくみ ・国際連合の役割と課題 …集団安全保障の仕組みが必要とされた背景や平和と安全を維持するための国際連合の取り組みについて理解するとともに国際連合が抱える課題について考察する。 4. 複雑化する国際政治と日本 ・戦後国際関係の発展 …第二次世界大戦後の国際関係や冷戦体制の変化について理解する。 ・冷戦後の国際関係 …冷戦終結後の国際関係の変化や、現在の国際社会が抱える課題について理解する。
理解度の目標値(期末補習の基準)	（前後期共通 次の3つの観点で補習基準を設定する） ①教科目標の観点から授業への出席を重視し、出席状況が半分を下回った場合。 ②試験で出題する論述問題が未記入および観点が足らないと判断した場合。 ③それぞれの生徒にあった最低限の理解度を試験等で把握し、理解や向き合う姿勢が足りないと判断した場合。 （次にあげる項目について学習の到達目標としたい） 因果関係や背景を考え、歴史的事象を多角的に理解する力を身に着ける。また過去の歴史が現代社会の諸課題とつながっていることを理解する。 政治や経済の基本的な仕組みを理解し、資料を活用して現代社会の課題を多面的に考察し、その解決に向けての主体的な意見を持つ。	

学習上の ポイント	・世界の中の日本という視点を持ち、世界史上の出来事が日本の歴史にどのような影響を与えたのかを学習する。 ・過去の出来事が現代社会の政治・経済・国家体制・安全保障等につながり、また自分の生活につながっていることに気づき、 現代の国家の基礎が作られた歴史的潮流について理解する。
その他の学び	・成人年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ、主権者教育に重点を置き、社会形成の一員として必要な知識と能力を習得する。 ・日本と諸外国の文化の違いを、歴史的観点から学ぶ。
教科を通じて 学んで欲しいこと	・歴史（過去）を学ぶことは現代に通じることであるという点。 ・現代の国家や経済について、1年生の学習をベースにし、それが歴史的にどう作られてきたかを学ぶ。 ・歴史的事象を横断的に学習することでで、各国の歴史につながりがあることを認識する。
学習教材	・「新選歴史総合」（東京書籍）・「政治経済」（東京書籍） ・その他、必要に応じて教材を設定する。
その他	

教科	数学	学年	2	クラス	Ad/Ba	担当	奥山・長嶋

教科目標	基礎的な知識の習得をし、数学のよさを認識できるようにする。指導方法を工夫・改善することによって、生徒一人ひとりが意欲的に取り組み、論理的思考力や問題解決能力が高まるように努める。
科目	数学Ⅱ

	前期	後期
学習内容	◇三角比 ・鋭角の三角比 三角比の相互関係について理解し、三角比を利用して平面図形の計量等に利用できるようにする。 ◇方程式 ・2次方程式 虚数単位を理解するとともに、数を実数から複素数に広げることに興味をもち、複素数を導入したことで、すべての2次方程式を解くことができることを理解する。 ・高次方程式 因数分解による解法、および因数定理を利用した解法について理解する。	◇三角関数 ・三角関数 180°以上、および負の角度に対する三角比を求めることができ、それらを関数としてとらえることができる。 ◇指数関数と対数関数 ・指数関数 指数の範囲を整数全体に拡張することに興味をもち、指数法則を用いた計算をすることができる。また、指数を有理数に拡張しても累乗が定義でき、指数法則が成り立つことを理解する。 ・対数関数 対数の意味を理解し、簡単な対数の値を求めることができる。また、指数法則に関連させながら対数の性質を 理解する。
理解度の目標値(期末補習の基準)	・30°、45°、60°のsin・cos・tanの暗記をする。 ・直角三角形のsin・cos・tanを求められる。 ・複素数の基本的な計算ができる。	・様々な角度を表すことができる。 ・弧度法という新しい角の概念を理解している。 ・拡張された指数の意味を理解し、指数法則を用いて 計算することができる。 ・対数の性質を理解し、基本的な計算ができる。
学習上のポイント	・正負の四則演算、文字を利用した計算、因数分解ができること。 ・年間を通して、因数分解や方程式の計算ができること。	
その他の学び	・基本的には授業の復習に取り組むことは多いが、数学への興味・関心をもってもらう内容も取り入れていくよう心掛ける。 →賢くなるパズル・・・四則演算を用いたパズルに取り組むことで、計算力や思考力、集中力を養う。 →フォーマテリアル・・・トランプを用いたゲームを通して、計算力を高める。	
教科を通じて学んで欲しいこと	・自ら学び自ら考える力や創造性の基礎となる力を学習内容を通して育成されるよう留意する。 ・問題解決への道筋を構成する力を養う。 ・単なる計算ではなく、数学的な見方や考え方をすることにより、日常生活を豊かにする。	
学習教材	新数学Ⅱ（東京書籍） 新数学Ⅱ 解答編（東京書籍）	
その他	・習熟度には分けるが、共に同じ学習をする。 ・前期・中間・後期の試験結果でAd/Baの入替をするが、点数だけではなく数学的な思考力も参考にする。 ・成績の評価の方法は、出席や授業態度（意欲+関心+態度）、課題等の提出状況で判断する。	

教科	理科	学年	2年	クラス	Ad/Ba	担当	井出

教科目標	科学の知識が、日常生活を便利にしたり、自分の身を守ることや環境を守ることにつながったり することを実感し、高校理科の学習の土台となる知識と、疑問から思考を深める力を身につける

科目	化学基礎

	前期	後期
学習内容	[前期：学習内容] 1年次の復習を土台として、化学の基礎知識を定着させる 1. 「原子の構造と元素の周期表」 化学を学ぶ基本である原子、および周期表について理解し 学習の基礎を作る。 原子の構造を理解し、電子配置図を描けるようになる。 2. 「化学結合」 代表的な原子の結合方法（イオン・共有・金属）を 学習し、物質の構成や特徴の違いについて理解する。 また、電子式、構造式を描けるようになる。 3. 「化学反応式」 身近な化学反応について、反応物と生成物を用いて 化学反応式を正しく書けるようにする。 高度な反応式にも、未定係数法や倍数法を用いて 対応できる力を習得する。	[後期：学習内容] 物質量を学びより発展的な計算ができるようになる 4. 「原子量・分子量・式量」 原子量を用いて、目的の物質の量を求められるように する。 5. 「物質量」 化学の基本的単位である"mol(モル)"の概念について 学習し、物質量を用いた計算ができるようになる。 6. 「化学反応式の量的関係」 物質量の概念を用いて、化学反応式から反応物と 生成物における量的関係を読み取れるようにする。 7. 「溶液の濃度」 溶液における濃度の表し方である「質量パーセント濃度」 と「モル濃度」を学習し、計算できるようにする。
理解度の目標値 (期末補習の基準)	1. 学習に必要な元素記号を覚えていること 2. 電子配置図が確実に書けること 3. 化学反応式が確実に書けること 4. 結合の違いを理解できること 5. 原子量の概念を理解できること	1. 原子量の概念を理解できること 2. 物質量の概念が理解できていること 3. 化学反応式から量的関係を読み取ることができること 4. 濃度を求めることができること
学習上のポイント	1. 小数・分数を使った計算ができること 2. 一次方程式から解を導き出せること 3. 比の計算ができること 4. 指数が理解できること	
火・木の学習内容	□ 通常授業の復習と演習 □ 学習した範囲で対応できる入試問題等 □ より幅広い化学の知識や、調べ学習 □ 通常授業の内容に則した実験	
教科を通じて学んで欲しいこと	1. 繰り返し学習をすることで知識が身についていく実感 2. 積み重ねることで問題が解けるようになる達成感と、問題を解くことができる自信 3. 学習行動の積み重ねによって、レベルの高い学習ができるようになっているという実感と自己肯定感 4. 学んだ知識が、日常生活やこれからの人生に“役立つ”という学ぶ意味づけ 5. 自分の生活環境がいかに恵まれているかを認識し、感謝する気持ち 6. 「楽しむ時は楽しむ」「やるべきことはやる」というメリハリ 7. 「提出期限を守る」などの社会的ルール	
学習教材	東京書籍 新編 化学基礎 東京書籍 新課程 ニューサポート 新編化学基礎	
その他	■ 丁寧に学習することで「高等学校で化学を学んだ」という自信につなげたい。 ■ 一般常識として知っている知識を身につけ、その知識により、身の回りで起きるさまざまな現象に対して より興味・関心をもつことを目標とし、生活の視野を広げるきっかけづくりとしたい。	

教科	保健体育	学年	2	クラス	共通	担当	松澤

教科目標	心身の健康を保つために必要な知識を身につけること。苦手なことにも挑戦したり、前向きに生きる姿勢や態度を育むこと。他者とのつながりを育むこと。

科目	体育

	前期	後期
学習内容		座学　1 スポーツと経済 2 ドーピング 3 技能と体力 4 トレーニング 実技　共通　体を動かすこと ストレッチ 種目　体ほぐし ビーチボールバレー スマイルボーリング ハイキング バスケットボール 学年の状況に応じて
理解度の目標値(期末補習の基準)	座学　3回の報告課題の達成度が70%に達していない場合 実技　規程の時間数に達していない場合、見学等でじゅうぶんと判断されない場合	
学習上のポイント	抵抗感・苦手意識をひくくする内容を実施し、不参加の割合を少なくすること。 前向きに取組めるような雰囲気作りを心掛けること。 自発的な活動につながるように配慮すること。	
その他の学び	他者の取組を見学・応援することを通して、スポーツや体を動かすことに前向きに関わる姿勢を育むこと。	
教科を通じて学んで欲しいこと	ひとりでは、学べないことを学ぶ、体験する。	
学習教材	現代高等保健体育（大修館書店）	
その他	生徒の実態に応じて、学習強度や内容を検討し、実施をすること。	

教科	保健体育	学年	2	クラス	共通	担当	松澤

教科目標	心身の健康を保つために必要な知識を身につけること。苦手なことにも挑戦したり、前向きに生きる姿勢や態度を育むこと。他者とのつながりを育むこと。

科目	保健

	前期	後期
学習内容		1 感染症 概略 予防・対策 性感染症・エイズ 2 応急手当 RICE 熱中症 心肺蘇生 3 生涯を通じる健康 受精・妊娠・出産・母子保健サービスの活用 家族計画の意義と避妊法 人工中絶
理解度の目標値(期末補習の基準)	3回提出の報告課題の達成度が70%に達成しない場合 規程の時間数を出席していない場合	
学習上のポイント	教科書を読み込むこと 内容を要約して述べること 教科書の内容を踏まえて自分の考えをのべること	
その他の学び	年度末試験時に時事内容を盛り込みことを通して、社会の変化に興味をもつこと	
教科を通じて学んで欲しいこと	他者の意見を聞く、他者との違いにきづく、他者との共通点があることを知る 無意識のなかでも健康が保たれていること	
学習教材	現代高等保健体育（大修館書店）	
その他		

教科	英語	学年	2	クラス	Ad・Ba共通	担当	吉岡・平林

教科目標	基礎の定着を図り、次年度へのステップを作る

科目	英語コミュニケーションⅡ	
	Ad:平林、 Ba:吉岡	Ad:吉岡、Ba:平林
	前期	後期
学習内容	1.「未来形」 ・be going to ～を用いて未来の表現ができるようになる。 ・willを用いて未来の表現ができるようになる。 2.「受動態」 ・基本的な一般動詞の過去分詞の読み書きができる。 ・受動態はbe動詞+過去分詞で表すことを定着させる。 3. 教科書 【Ba】教科書Lesson 1「A Colorful Island」 ・本文中で使われている語句を理解する。 ・本文の内容を理解する。 【Ad】 教科書Lesson4「Little Hero」 ・本文中で使われている語句を理解する。 ・受動態及び比較級、最上級、原級の理解を深める。 ・本文の内容を理解する。 4.「比較級」 ・形容詞の比較級、最上級を理解する。 ・比較級、最上級、原級を用いて表現できるようになる。	1.「助動詞」 ・基本的な助動詞を用いて表現することができる。 ・助動詞の後ろは原形になることを定着させる。 2.「接続詞」 ・それぞれの接続詞の意味を理解する。 ・文中での用法がつまずきやすいので、注意する。 3. 不定詞 ・3用法の違いを理解し、使い分けることができる。 ・不定詞は、to+動詞の原形で表すことを定着させる。 4. 教科書 【Ad】教科書Lesson8 「Inspiration from Nature」 【Ba】教科書Lesson9 「The Bitter Truth behind Chocolate」 ・本文中で使われている語句を理解する。
理解度の目標値(期末補習の基準)	・受動態be動詞+過去分詞を正しく用いることができる。 ・一般動詞の過去分詞が書ける。 ・willとbe going to を使い分けることができる。 ・形容詞の比較級、最上級、原級の形と意味がわかる。 ・教科書の内容を理解している。	・それぞれの助動詞の意味が分かり、適切に使うことができる。 ・それぞれの接続詞の意味が分かり、文中で適切に使うことができる。 ・動名詞が文中で名詞の役割を果たすことを理解し、適切に使うことができる。 ・教科書の内容を理解している。
学習上のポイント	・1年次の学習内容を理解している。 ＊be動詞と一般動詞の使い分けができる。 ＊過去形、過去分詞（現在分詞）がわかる。	
その他の学び	・火曜日⇒授業内容の復習や英語を用いた活動をAd/Ba合同で行う。 ・木曜日⇒コミュニケーション活動、国際理解教育（時間割により回数は限定される）タラジャ先生	
教科を通じて学んで欲しいこと	・英語は文法を勉強する教科という強いイメージがあるが、「コミュニケーションの方法」を学ぶ教科でもあること。 ＊英語を用いたコミュニケーションだけではなく、友人とのかかわり方等も学ぶきっかけとしてほしい。 ・他国の言語や文化に触れることで、視野を広げ外の世界に興味を持つこと。 ＊自分の持つ世界が基準ではなく、国や人によって様々な文化や考え方があることに気付いてほしい。	
学習教材	・東京書籍 All Aboard! English CommunicationⅡ ・英単語テスト（毎週水曜日実施）→5月～ 「チャンクで英単語 Basic」、および「過去分詞単語ブック」より出題	
	・後期は前期の成績をもとにAd/Baに分ける予定。 ・英語検定を実施する。（5月、10月、1月） ・プリントは講座ごとにアレンジして使用する。	

教科	情報	学年	2年	クラス	学年	担当	牧村

教科目標	情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う

科目	情報Ⅰ

	前期	後期
学習内容	[前期：学習内容] 1章情報で問題を解決する ・Society5.0の情報社会 ・問題の発見から解決 ・情報社会で生活していくための情報モラル ・著作権 ・産業財産権 ・SNSを通して個人情報が流出・特定される仕組み 2章情報で問題を解決する ・デジタルデータのメリットとデメリット ・2進法と情報の単位 ・音、画像、動画のデジタル化 ・デジタルでの色の原理	[後期：学習内容] 3章コンピュータを活用する ・コンピュータの基本構成 ・ハードウェアとソフトウェア ・プログラムの動作の仕組み ・アルゴリズムの表現方法 ・Python言語の基本 ・Python言語による簡単なプログラミング 4章データを活用する ・ネットワークとインターネット ・LANとWAN ・インターネットの仕組み ・サーバとクライアント ・情報セキュリティ
理解度の目標値 （期末補習の基準）	1. 情報モラルについて理解していること 2. 著作権について理解していること 3. 2進数に変換できること 4. デジタル化の原理を理解していること	1. コンピューターの構成を理解していること 2. Python言語で簡単なプログラムが作成できること 3. ネットワーク機器の種類を理解していること 4. 情報セキュリティを理解していること
学習上の ポイント	1. 正しく情報発信や情報活用ができる 2. Society 5.0の未来を正しく理解する 3. Python言語による簡単なプログラムが作成できる 4. インターネットの仕組みを理解する	
火･木の 学習内容	特になし	
教科を通じて 学んで欲しいこと	1. SNSの特性を理解し、ネットトラブルを起こさないようにすること 2. 著作権などについて理解し、安易にネット上にデータを上げないこと 3. デジタルの基本知識を身に着け、活用できること。 4. 様々な場面で課題を発見し、その課題を解決する力を身に着けること 5. ネットワーク社会を生き抜く力を身に着けること	
学習教材	新編情報Ⅰ（東京書籍）	
その他	特になし	